

1. 内政・外政

9月

- 2日、ンダイシミア大統領が、ブルンジの新型コロナウイルス感染者数増加について報道したRSFのブルンジ人記者について、ブルンジの印象を傷つけていると批判。国境なき記者団（Reporters Sans Frontières、RSF）は、同大統領の発言について、ブルンジ国内の報道の自由の脆弱性を示すものとして遺憾を表明。（RNA、BBC）
- 11日、ブルンジ政府が13日に学校を3ヶ月振りに再開。中等学校及び寄宿学校の生徒のみ新型コロナウイルス検査が必須。（The East African）
- 16日、ブルンジ国連調査委員会が、ンダイシミア大統領就任後の15ヶ月間で、野党、メディア、NGOに対する人権状況が悪化していると報告。（RNA、BBC）
- 21日、複数の爆破事件で少なくとも3人が死亡。18日に迫撃砲によるブジュンブラ空港襲撃事案発生。反政府組織RED-Tabaraがツイッターで関与を表明。19日、ギテガ市内の飲食店に手榴弾投てき事案が発生。20日夜には、ブジュンブラ市内中心部において2件の手榴弾投てき事案が発生。（The East African、BBC）
- 21日、ブルンジ政府が、新型コロナウイルス対策として社会的集会の平日開催を見合わせ、週末のみ許可すると発表。（The East African）
- 23日、ブルンジ政府が、国外追放されている野党MSDの政治家シンドゥヒジェ（Alexis SINDUHIJE）氏を、2020年初めから発生している手榴弾投てき事案等のテロ行為を指揮した疑いで国際指名手配。ブルンジ政府は、同氏がRED-Tabaraの指導的立場にあると見ている。（The East African）
- 23日、ルワンダ在住のブルンジ人人権活動家バランキツセ（Ms. Marguerite BARANKITSE）氏が、ギテガ及びブジュンブラで発生した爆発事件への関与を否定。同氏は、2015年の政権転覆未遂に関与したとして、今年初めに不在のまま終身刑を宣告されており、今週発生した爆発事件を計画したとして検察に訴えられていた。（BBC）
- 24日、野党MSD（連帯と民主主義のための運動）が、最近発生した複数の爆破事件は「政治哲学に反する」として一切の関与を否定。（RFI）
- 30日、ルワンダの武装集団メンバーと見られるルワンダ人13名がブルンジ西部のチビトケで逮捕、ブルンジ諜報局（SNI）によりブジュンブラで拘留。（SOS Medias Burundi）

10月

- 5日、国連人権理事会が、ンダイシミア大統領就任後の人権、グッドガバナンス、法の支配に関する進展を認めつつも、公民権や基本的自由の制限、人権侵害や冒涇の不処罰等に遺憾の意を表する等の決議を採択。
- 7日、ブルンジからルシジ川を渡りコンゴ（民）に入国してきたブルンジ人30人が

同国東部の南キブ州で逮捕。コンゴ（民）当局によれば、逮捕者は牛を強奪し武装集団に参加するために越境。（SOS Medias Burundi）

- 18日、ブルンジが新型コロナウイルス・ワクチン接種を開始。ブルンジは前週にシノファーム社製ワクチン50万回分を受領しており、ンディクマナ公共保健・エイズ対策大臣は医療従事者と高齢者を優先すると発言。（BBC）
- 22-24日、ンダイシミア大統領がタンザニアを訪問。ハッサン大統領とともに、地域の平和・安定に向けた協力を約束したほか、ウビンガ（タンザニア西端部）-ムソングァティ（ブルンジ南東部）-ギテガ（ブルンジ政治首都）を繋ぐ240kmの鉄道建設プロジェクトについて協議。同プロジェクトは、EAC入りが見込まれるコンゴ（民）からの鉱物、木材製品、農業製品等の輸送に、モンバサと繋がる北部回廊ではなく、ダルエスサラームと繋がる中央回廊を使うことを見据えたもの。（The East African、BBC）
- 26日、ブルンジのキルンド県知事及びムインガ県知事が、ルワンダの南部県及び東部県の関係者とブルンジ北部のネンバ・ガセニ国境で面談。両国の国境付近における平和及び治安の強化について協議し、治安を脅かす犯罪者を相互に引渡すことに合意した。（RNA）

2. 開発協力

10月

- 26日、343名のブルンジ難民がウガンダからブルンジに自主帰還（25日）。これにより、2021年開始以降に自主帰還したブルンジ難民の数は6万人以上に（そのうち約半数がタンザニアからの帰還。その他、ルワンダ、コンゴ（民）、ケニヤ。ウガンダからの帰還は今年10月初めに再開）。（RNA）

以上